

第2回紙加工品（衛生用品分野）物流研究会 議事概要

令和4年1月13日（木）10時00分～12時00分
オンライン（zoom）／中央合同庁舎2号館12階 国際会議室

○ 事務局から資料説明の後、意見交換を行った。主な意見は以下のとおり。

（T11 パレットの活用を前提とした外装サイズの標準化に向けた検討について）

- ・ 「パレットサイズの標準化」に合わせて自社パレットからレンタルパレットへ変更することで、着荷主側での仕分工数が軽減され物流効率化が図れる。
- ・ 物流会社は「パレットサイズの標準化」によって、保管や輸送効率上がるが、積込と荷卸の際に段積や段卸の付帯作業が生じることも認識が必要。
- ・ パレット輸送を促進するためには、積付効率を上げる「外装サイズの最適化」が必要。
- ・ 加工食品の業界では、一昨年、物流標準化に向けた「アクションプラン」を策定し、昨年はこのアクションプランをさらに具体化する形で、外装サイズ標準化ガイドラインを策定した。標準化に向けて意欲的な業界である。
- ・ 物流効率化やドライバーの労働時間削減などのため、パレット輸送を促進する必要があるが、他社との差別化や競争がある中で「外装サイズの標準化」は難しい。
- ・ 「外装サイズの標準化」は、積付効率を追求した結果、ある製品のサイズだけが周りの製品と比べ突出してしまうことを避けるため、業界内である程度の認識の共有は必要。
- ・ 「外装サイズの標準化」は、コストに対する影響度を最小限にしていくことが重要。
- ・ 「外装サイズの標準化」による小売業務への影響は、ネガティブなのかポジティブなのか、掘り下げが必要。
- ・ 製品を安定的に届けるためには、小売業界も含めたサプライチェーン全体で取り組むことが必要。
- ・ 製造・販売・物流部門で様々な意見があっても、最終的には経営者の決断によって社内全体の最適化ができる。業界内の標準化は、各社に経済的なベネフィットがなければ、進まない。

- ・ 「外装サイズの最適化」が社内の最優先事項とはなっていないので、業界の物流課題と絡めてアクションプランを提示し、各社を後押しして欲しい。
- ・ 「外装サイズの最適化」に関して、物流部門が社内に提言できることには限界があり、本研究会のアクションプランが、各社の物流部門を後押しできれば良い。
- ・ 2024 年問題への対応など、具体的に取り組みを進める時間軸の検討も必要。

(SKU ごとに最適なパレットサイズの暫定的な活用について)

- ・ 混載して運ぶことを考えると、参考になるかわからない。
- ・ アンケート調査において、定性的な課題が既に明らか。
- ・ 実証実験によって、定数的な現場の負荷が明らかになる。
- ・ 別のパレットサイズに変更するのに 10 年かかった事例もあり、将来的に T11 パレットを見据えているのであれば、SKU ごとの最適パレットのアプローチは障壁になる。

以上